



風と大地の恵みに新たな希望が芽吹く、郷土愛あふれるまち～みんなで作る暮らし続けたい南区～

みなみ風



スマホのカメラをかざすだけ!



南区役所だより 音声版

発行/新潟市南区役所
編集/南区役所地域総務課
〒950-1292 南区白根1235番地
電話 025(373)1000(代表)
FAX 025(373)2385

南区ホームページ <https://www.city.niigata.lg.jp/minami/>

Eメール chiikisomu.s@city.niigata.lg.jp (南区役所地域総務課)

南区の人口(令和5年6月末現在、カッコ内は前月比): 42,892人(-43) 男: 20,885人(-13) 女: 22,007人(-30) 世帯数 16,631世帯(-3) (住民基本台帳による)

全農取り扱い量

南区のブドウ出荷量は県内1位!

たわわに実ったブドウ旬の味を楽しもう

これから旬を迎えるブドウ。たくさんの品種は、7月上旬から10月まで私たちを楽しませてくれます。旬の各品種を追いかけるように「ブドウ食ベリレー」はいかがですか? 甘くてジューシーな粒には、農家さんの愛情がたっぷりです。どうぞ召し上がれ!



ブドウカレンダー

これから旬を迎える主な品種を紹介します。

8月上旬～中旬



巨峰・種なし巨峰 デラウェア

9月上旬



クインニーナ

9月中旬



シャインマスカット

どの品種も肩の方が甘く、先端に向かうにつれさっぱりとした食味になります。食べる時は肩から先端に向かって食べるのがおすすめです!

※農地・生産方法の違いにより、成長は異なります

み〜つけた!

皮についている白い粉の正体は?



皮についている白い粉を農薬や汚れだと思いませんか?これは「ブルーム」といって、脂肪酸などでできた天然成分が皮の表面に浮き出たものです。ブルームには、雨や朝露などをはじいて病気を防いだり、水分蒸発を防いで鮮度を保つ働きがあります。洗う際は無理に落とす必要はありません。むしろ新鮮さの証です。

ブルームが守ってくれているので、洗わずに軸を少し残して一粒ずつカットします。それを保存袋に入れて冷蔵庫で保存しましょう。



ぶどう農家 岡田武さんの農地を見学! いろいろ教えてもらいました。

手間がかかるからこそ おいしさ抜群!

一房一房、一粒一粒に人が向き合う作業が多いブドウ。その作業の中でも大変かつ重要なのが、房から余分な粒を取り除く「摘粒」です。残した粒に栄養を蓄えさせるだけでなく、房の形や粒を揃えるためにも大切な作業です。

農家の皆さんの苦勞があり、おいしいブドウは私たちに届けられます。

摘粒をしないと、粒が小さくなってしまいます。



高い場所での作業に! 便利な道具を発見!



これなら移動しながら作業ができるね!

ブドウはどこになる?

ブドウは「ブドウの木になります」と、答える人が多いのでは? しかし、それは不正解。

ブドウは「ブドウのつるになります」が、正解です。

ブドウ棚を観察してみると木質化している先端から緑色のつるが伸びているのがわかります。木質化しているのは去年のつる。そこから新しいつるが伸び、ブドウがなります。来年年になると、このつるが木質化し、また新しいつるが伸びていきます。



↑ 今年の実がなる「つる」の部分

↑ 木質化した部分

白根地区でモモの初出荷

6月30日、モモの初出荷が行われました。今年フルーツフラワーしろねの取り扱い量は475トンと予定しており、初日は、早生品種の「白川白鳳」約1.7トンが出荷されました。しろね果樹部会も専門部長の笠原清明さんは「白根のモモは味が濃く甘くておいしいです。食べてもらえれば笑顔になれると思うので、ぜひ食べてほしいです」と話しました。



モモは9月中旬まで、さまざまな品種がリレー方式で出荷されます。昨年8月7日発行「南区役所だより 第368号」で品種を紹介しています(右二次元コード)。



第16回 南区美術展覧会 最優秀賞

今年度の南区美術展覧会は4部門(絵画、書道、写真、彫塑・工芸)に98点の作品が出展されました。その中で、最優秀賞を受賞した作品と作者の喜びの声を紹介します。



退職後、家族の介護も終わった時に、中学まで習っていた習字を思い出し、50年ぶりに公民館の講座で始めました。縁あって数年前から出品に取り組みことができ、今回このような賞をいただいたことをとてもうれしく思います。これからも健康を願い、晩年の張り合いとして続けられたらと思います。

書道部門

「臨王鐸」 笹川 明水さん



彫塑・工芸部門 「枯木」 相田 ノリ子さん

作品制作は、楽しいことも苦しいこともあります。作品の色や出来上がりは、窯を開けるまで分からないものです。うまくいかないことも多々ありますが、何より仲間と一緒に作品作りに取り組むことが楽しいです。これからも作り続けていきたいと思っています。



写真部門

「初夏の朝」 笹川 孝雄さん

まさか受賞できるとは思っていませんでした。写真は20年以上続けています。さまざまな場所を訪れて、美しい景色を楽しみながら撮影をしています。その中で自分だけの一瞬をとらえることができるのが、写真の面白さだと思います。



「夏の日」 巻口 元子さん

ずっと前から油絵を描いてみたいと思っていて、定年退職と同時に白根市民大学の洋画講座で描き始めました。中野雅友先生指導の下、講座の皆さんと共に時に楽しく、時に苦しく描き進めています。この絵は、丈高く育ったヒマワリとそばに立つ孫との対比が面白く、描いてみたいと思いました。最優秀賞をいただいたことは、自分の一つの区切りになると思います。